

2 宜野座村における人口の現状分析

(1) 人口の推移と推計

1) 人口総数・世帯数の推移

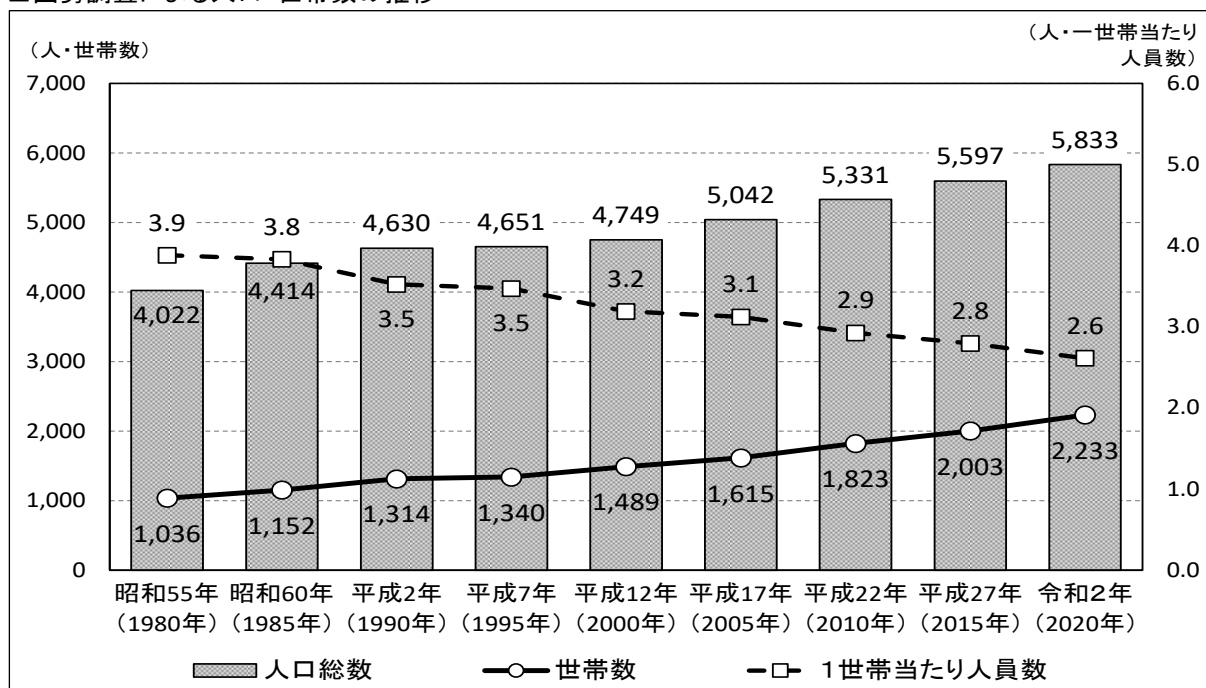
○本村の人口及び世帯数は増加傾向であり、1世帯あたりの人員は縮小し、世帯分離が進んでいます。

令和2(2020)年の国勢調査による本村の人口総数は5,833人、世帯総数は2,233世帯となっています。

昭和55(1980)年以降、人口・世帯数ともに大幅な増加はないものの、一貫して増加傾向となっています。人口増加率は平成7年に0.5%と鈍化したものの、平成17年以降は4～6%の増加率となっています。人口増加率や一世帯当たり人員は減少傾向であり、令和2(2020)年は2.6人となり、世帯の小規模化がうかがえます。

一方、住民登録人口は令和3年(2021)年10月現在5,911人となっています。

■国勢調査による人口・世帯数の推移



	昭和50年 (1975年)	昭和55年 (1980年)	昭和60年 (1985年)	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
人口総数	3,819	4,022	4,414	4,630	4,651	4,749	5,042	5,331	5,597	5,833
人口増加率	7.1%	5.3%	9.7%	4.9%	0.5%	2.1%	6.2%	5.7%	5.0%	4.2%
男性	1,858	1,956	2,157	2,290	2,293	2,376	2,518	2,654	2,775	2,907
女性	1,961	2,066	2,257	2,340	2,358	2,373	2,524	2,677	2,822	2,926
世帯総数	928	1,036	1,152	1,314	1,340	1,489	1,615	1,823	2,003	2,233
世帯増加率	9.6%	11.6%	11.2%	14.1%	2.0%	11.1%	8.5%	12.9%	9.9%	11.5%
1世帯当たり人員数	4.1	3.9	3.8	3.5	3.5	3.2	3.1	2.9	2.8	2.6

資料：総務省「国勢調査」

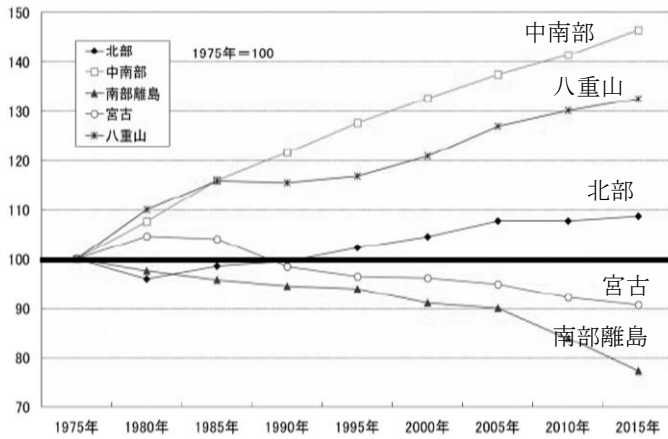
■住民登録の推移

各年10月1日現在

	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)
人口総数	5,501	5,536	5,601	5,632	5,625	5,655	5,749	5,785	5,846	5,911
人口増加率	2.0%	0.6%	1.2%	0.6%	-0.1%	0.5%	1.7%	0.6%	1.1%	1.1%
男性	2,720	2,735	2,770	2,792	2,802	2,817	2,861	2,877	2,900	2,936
女性	2,781	2,801	2,831	2,840	2,823	2,838	2,888	2,908	2,946	2,975
世帯総数	1,913	1,920	1,966	2,002	2,043	2,079	2,197	2,231	2,282	2,344
世帯増加率	3.3%	0.4%	2.4%	1.8%	2.0%	1.8%	5.7%	1.5%	2.3%	2.7%

資料：沖縄県の推計人口

参考：沖縄本島の北部地域の市町村の人口総数の推移



地域	構成市町村名
北部地域	名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村
中南部地域	那覇市、宜野湾市、浦添市、糸満市、沖縄市、豊見城市、うるま市、南城市、読谷村、嘉手納町、北谷町、北中城村、中城村、西原町、与那原町、南風原町、八重瀬町
南部離島地域	渡嘉敷村、座間味村、粟国村、渡名喜村、南大東村、北大東村、久米島町
宮古地域	宮古島市、多良間村
八重山地域	石垣市、竹富町、与那国町

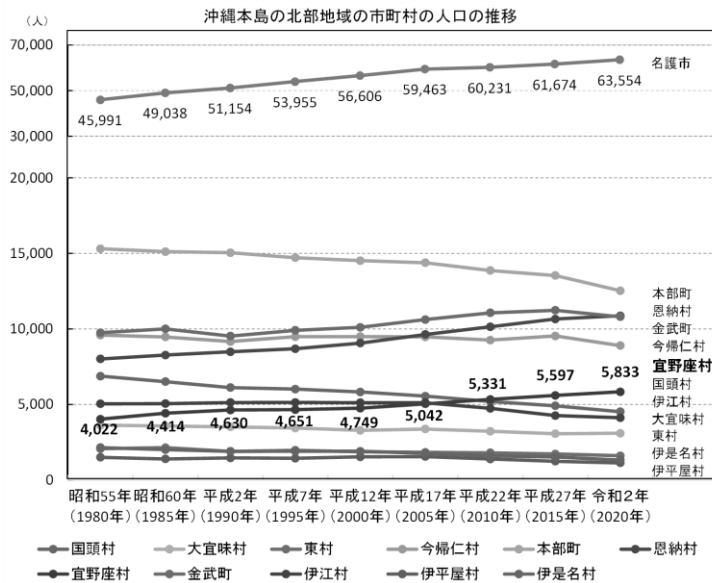
資料：沖縄21世紀ビジョンゆがふしまづくり計画 令和2年3月 沖縄県

・昭和 50 (1975) 年の人口を 100 とした地域別人口の推移をみると、中南部と八重山の地域の伸びが高く、次いで北部が緩やかに伸びている。

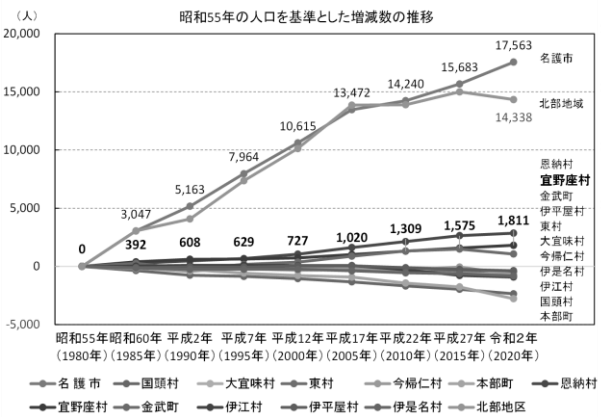
・北部地域は、名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村の 12 市町村で構成している。

・北部地域における人口の推移をみると、名護市以南の市町村では増加傾向となっている。一方、名護市より北側の町村と本部町と伊江村では減少傾向となっている。

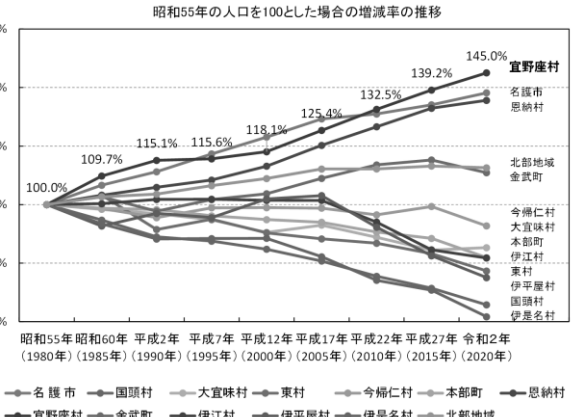
・宜野座村の人口は、北部地域で人口が増加している 4 市町村 (名護市、恩納村、宜野座村、金武町) のなかで小さい規模であるが、増加率は北部地域のなかで最も高くなっている。



資料：総務省「国勢調査」



資料：総務省「国勢調査」



資料：総務省「国勢調査」

参考：沖縄本島の北部地域の市町村の基礎指標

	総人口	人口規模	人口増減率	合計特殊出生率	一世帯当たり人員	出生率	死亡率	生涯未婚率男性	生涯未婚率女性	女性人口のうち15～49歳の女性の割合	女性15～49歳	女性の人口
単位	人	%	倍	人	人/世帯	‰	‰	%	%	%	人	人
名護市	63,554	4.31	1.030	1.89	2.21	10.7	8.4	27.3	17.2	40.8	13,043	31,948
国頭村	4,517	0.32	0.920	1.81	2.35	5.4	15.8	39.2	15.2	30.9	679	2,200
大宜味村	3,092	0.20	1.010	1.91	2.38	6.6	23.3	49.8	27.2	28.7	416	1,452
東村	1,598	0.11	0.929	1.93	2.20	6.7	14.6	37.1	21.9	27.6	197	714
今帰仁村	8,894	0.65	0.933	1.92	2.60	8.6	14.3	29.7	17.5	31.2	1,381	4,428
本部町	12,530	0.91	0.926	1.95	2.45	8.6	13.9	34.9	19.8	33.1	2,048	6,193
恩納村	10,869	0.75	1.020	1.77	2.49	8.6	8.8	32.3	20.8	42.4	2,277	5,372
宜野座村	5,833	0.40	1.042	2.29	2.62	12.2	12.0	20.0	8.4	37.5	1,096	2,926
金武町	10,806	0.78	0.962	2.47	2.37	13.0	9.6	37.9	21.7	35.0	1,904	5,435
伊江村	4,118	0.29	0.967	2.12	2.12	13.1	12.6	32.9	15.3	25.6	523	2,044
伊平屋村	1,126	0.08	0.910	2.07	2.32	8.2	14.8	26.5	10.1	31.2	162	519
伊是名村	1,322	0.10	0.871	2.07	2.13	8.1	19.5	31.0	16.8	31.0	187	604
北部地域	128,259	8.90	0.995							37.5	23,913	63,835
備考		(構成比)	(増減率)			1,000人当たり		(構成比)		(構成比)		
調査時点	2020年	2018年10月1日	2015→2020年	2013→2017年	2018年10月1日	2017年		2020年			2020年	
資料	国勢調査	推計人口	国勢調査	人口動態保健所・市区町村別統計	推計人口	人口動態総覧		国勢調査			国勢調査	

	年少人口	生産年齢人口	老年人口	高齢単身世帯	昼夜間人口比率 100=昼間と夜間同数	転入比率	転出比率	社会増減比率 純移動ゼロ=100	県外からの転入比率
単位	%	%	%	%	%	%	%	%	%
名護市	17.1	60.4	22.5	10.8	105.3	110.9	108.8	102.1	4.7
国頭村	13.0	52.7	34.3	18.9	97.4	77.7	90.1	87.6	3.2
大宜味村	11.4	51.6	37.1	22.4	100.3	89.1	86.3	102.8	3.6
東村	12.4	50.9	36.7	20.4	102.2	113.8	117.5	96.3	5.9
今帰仁村	15.0	51.0	34.0	17.6	92.7	87.4	83.9	103.6	3.9
本部町	14.4	52.6	33.0	16.8	100.5	85.1	89.1	96.0	3.7
恩納村	14.6	61.3	24.1	10.7	121.1	185.2	170.2	115.0	11.1
宜野座村	19.9	54.6	25.6	13.5	93.6	117.3	99.0	118.4	2.2
金武町	17.4	54.8	27.8	19.3	97.7	113.9	106.8	107.1	3.1
伊江村	15.1	50.3	34.6	18.1	100.3	74.3	86.7	87.6	4.0
伊平屋村	17.3	53.1	29.6	14.7	99.7	112.3	134.9	77.3	3.4
伊是名村	15.7	53.5	30.9	19.2	101.3	98.1	119.2	78.9	4.2
北部地域									
備考		(構成比)		(構成比)	(比率)	対99年人口		100が純移動ゼロ	2010-15年
調査時点		2020年		2020年	2015年	2000-2018年の累計		2000-2018年の累計	2015年
資料		国勢調査		国勢調査	国勢調査	人口移動報告			国勢調査

- ・北部地域で2015年から2020年で人口が増加した市町村は名護市、大宜味村、恩納村、宜野座村であり、その他の8町村は減少となっている。
- ・本村及び隣接市町村の人口は増加であり、北部地域の市町村を比較すると、以下のような特徴がある。
 - 宜野座村：金武町に次いで合計特殊出生率（2.29）が高く、年少人口の割合も約2割と高い。
 - 名護市：北部地域の約半分の人口を占めて人口が最も多い。恩納村に次いで「女性人口のうち15～49歳の女性の割合」が42.2%と割合が高い。
 - 恩納村：夜間よりも昼間人口が多く、転入比率及び転出比率や、県外からの転入比率も最も高い。また、「女性人口のうち15～49歳の女性の割合」も最も高い。
 - 金武町：合計特殊出生率（2.47）が最も高くなっている。一方で生涯未婚率の女性の割合は隣接市町村のなかでは高くなっている。

2) 年齢別人口の推移

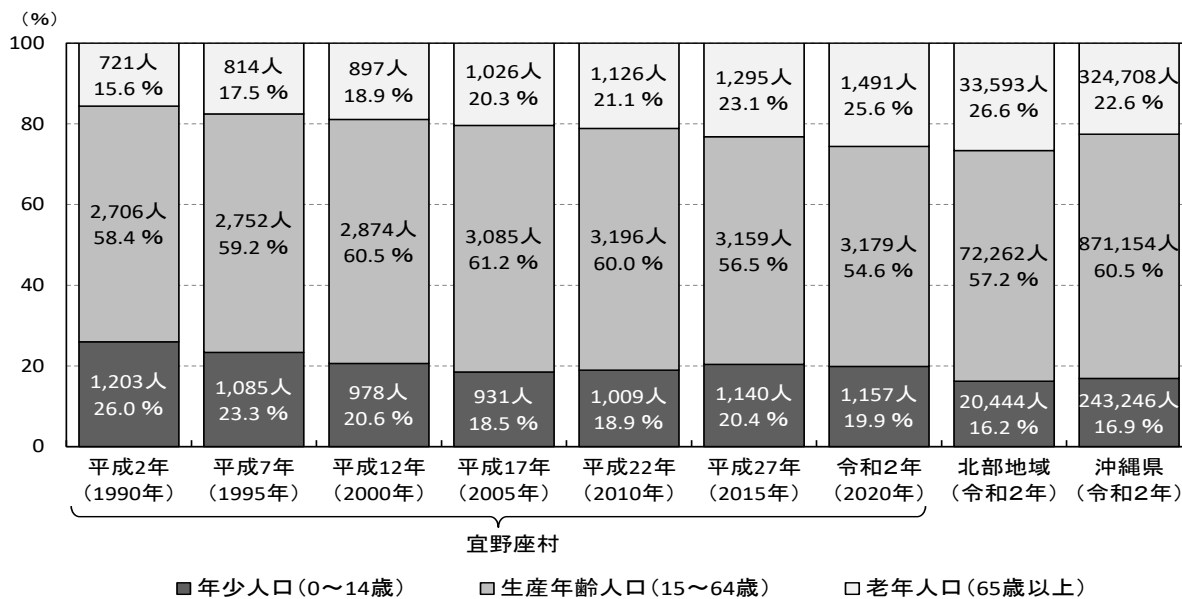
○平成17年以降、実数及び割合ともに老年人口が年少人口よりも多く、着実に少子高齢化が進展しています。高齢化の進行によって人口構成が変化し、経済にとってマイナスに作用すること（従属人口（14歳以下、65歳以上）比率が高まり、労働力の中核をなす生産年齢人口（15～64歳）比率が低くなる、働く人よりも支えられる人が多くなる社会）に留意する必要があります。

令和2（2020）年の国勢調査による年齢3区分別人口は、年少人口（0～14歳）が1,157人（19.9%）、生産年齢人口（15～64歳）が3,179人（54.6%）、老年人口（65歳以上）が1,491人（25.6%）となっています。

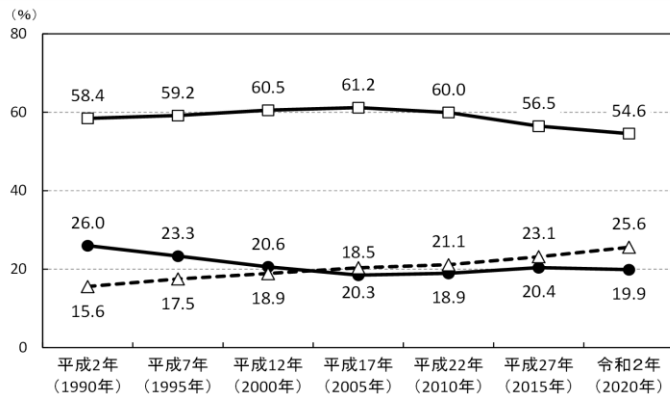
平成2（1990）年からの推移をみると、老年人口は増加傾向であり、年少人口は平成17年までの減少傾向から平成22年以降は増加傾向に転じています。生産年齢人口は平成17年までの増加傾向から平成22年以降は減少傾向に転じています。また、年少人口と老年人口の割合は、平成17年以降から逆転している状況であり、本村においても少子高齢化が進展しているなかで年少人口が若干増加傾向となっています。

年齢3区分別人口の構成比を沖縄県や北部地域と比較すると、年少人口は沖縄県及び北部地域よりも高いものの、生産年齢人口は沖縄県及び北部地域よりも低くなっています。

■国勢調査による年齢3区分別人口・構成比の推移



■国勢調査による年齢3区分別構成比の推移

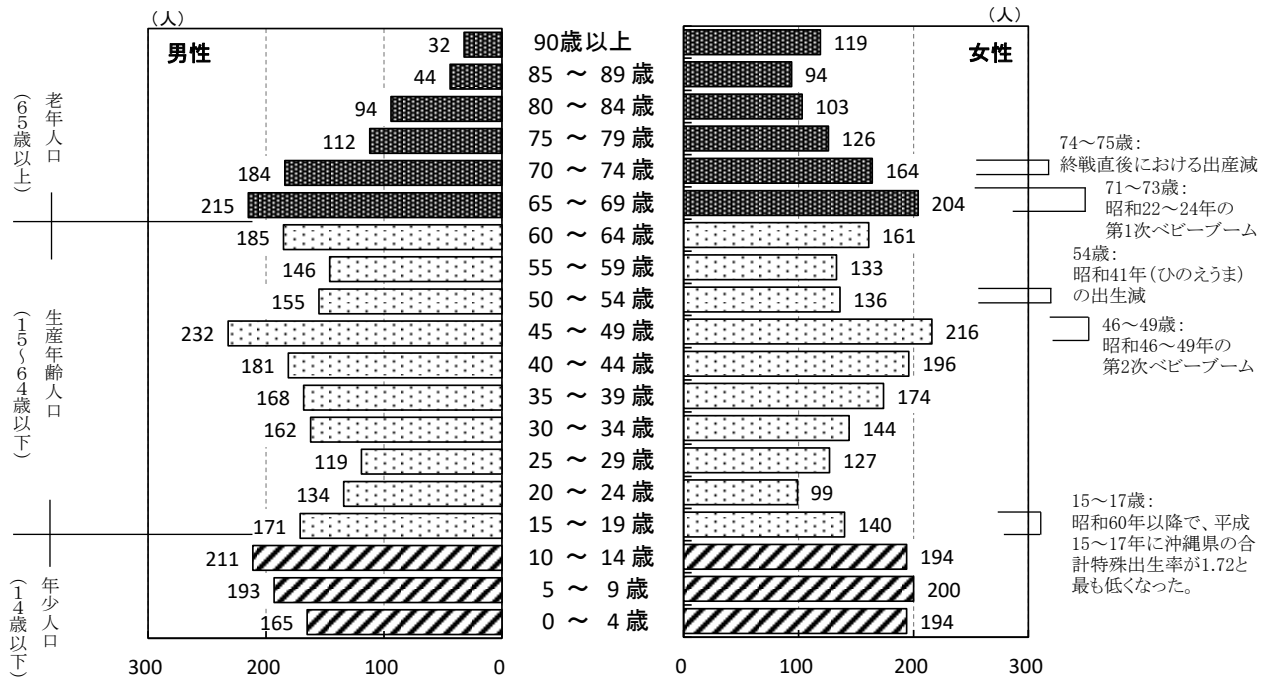


● 年少人口(0～14歳) ◻ 生産年齢人口(15～64歳) ▲ 老年人口(65歳以上) 資料:総務省「国勢調査」

宜野座村の人口ピラミッド（令和2年国勢調査）をみると、第1次ベビーブーム期生まれの60歳代後半及び第2次ベビーブーム期生まれの40歳代前半、出生数が回復した5～9歳の人口が膨らんだ星型に近い形となっています。

沖縄県及び全国と比較すると、5～14歳と40歳代前半の人口が膨らんでいることが特徴としてみられます。一方で、全国と比較すると、沖縄県と同様に、20～24歳の人口が窪んでおり、大学進学や就職により若い年齢層が村外に流出していることがうかがえます。

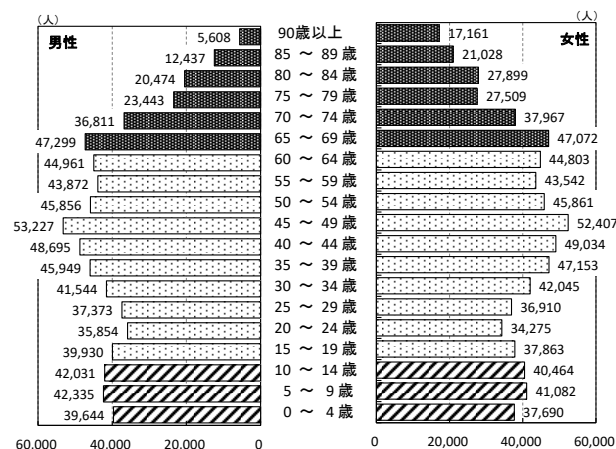
宜野座村 令和2(2020)年



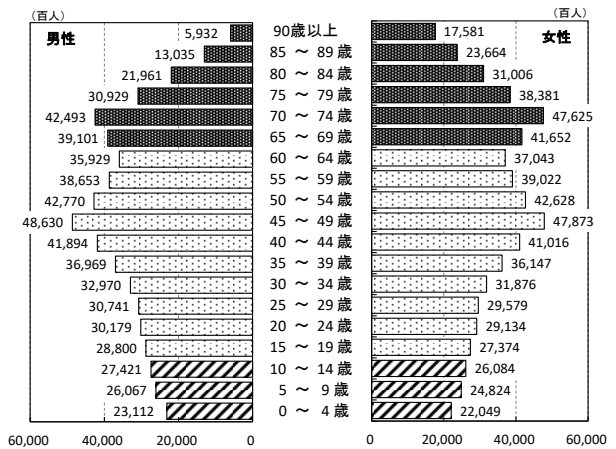
年少人口(0～14歳以下)	1,157人	0～4歳人口	359人
生産年齢人口(15～64歳以下)	3,179人	15～49歳の女性の人口	1,096人
高齢人口(65歳以上)	1,491人	75歳以上の人口	724人

資料：総務省「国勢調査」

沖縄県 令和2(2020)年



全国 令和2(2020)年

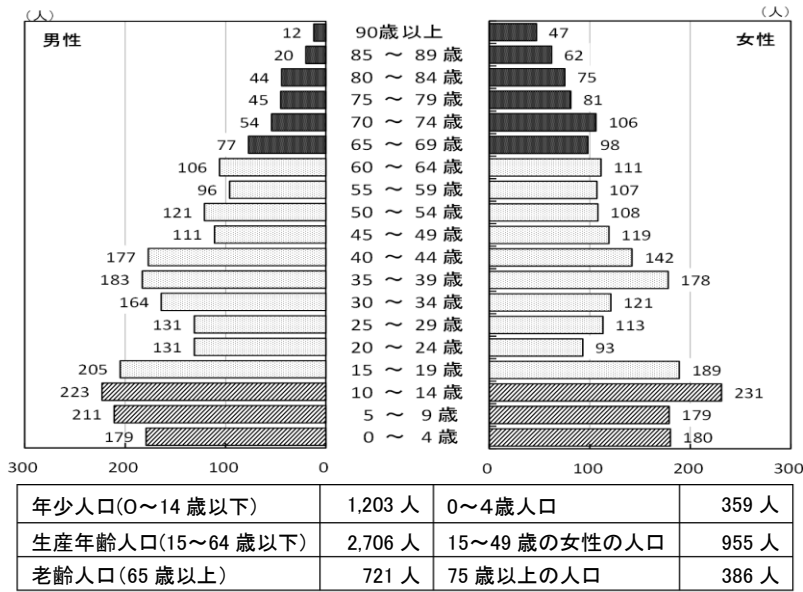


年少人口(0～14歳以下)	243,246	0～4歳人口	77,334	年少人口(0～14歳以下)	14,955,692	0～4歳人口	4,516,082
生産年齢人口(15～64歳以下)	871,154	15～49歳の女性の人口	299,687	生産年齢人口(15～64歳以下)	72,922,764	15～49歳の女性の人口	24,299,934
高齢人口(65歳以上)	324,708	75歳以上の人口	155,559	高齢人口(65歳以上)	35,335,805	75歳以上の人口	18,248,742

資料：総務省「国勢調査」

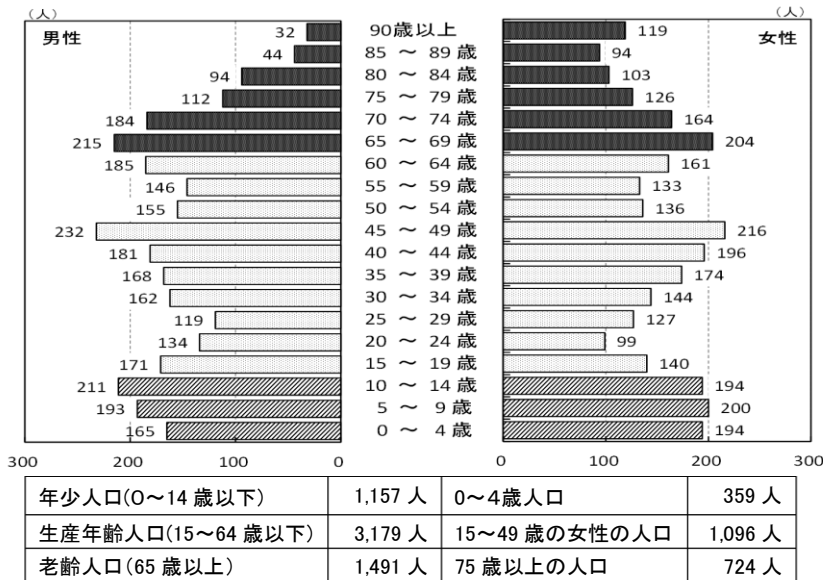
■宜野座村のピラミッドの変遷(平成2年、令和2年、令和27年)

平成2(1990)年



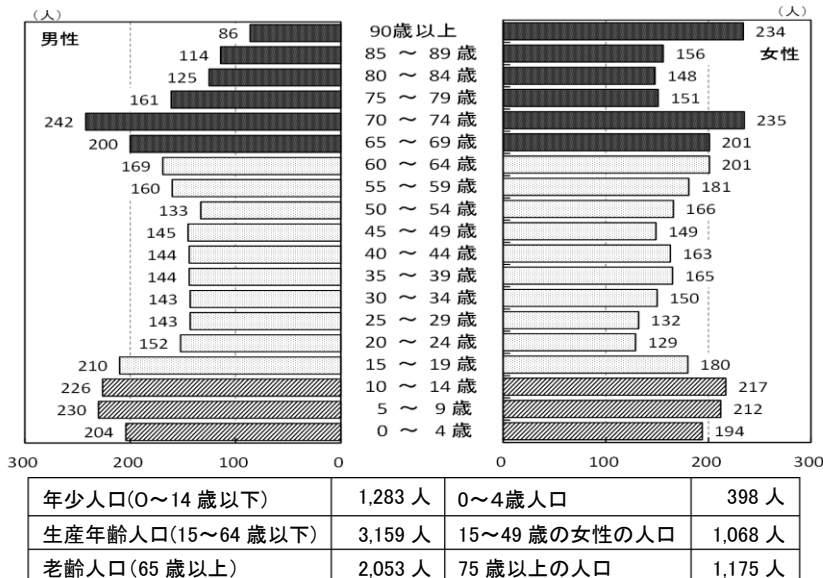
- ・多産多死の段階にある発展途上国にみられる「ピラミッド型」に近い形をしています。
- ・第2次ベビーブーム期生まれの10~14歳の人口が最も膨らみ、年少人口がピークとなっています。

宜野座村 令和2(2020)年



- ・出生数の減少による「つぼ型」から出生数の回復によって裾野が広がった「星型」に近い形です。(周辺地域から労働者が流れ込み、就業人口が増加した場合もこの型となります。)

宜野座村 令和27(2045)年



- ・「国立社会保障・人口問題研究所」による本村の将来人口推計、令和27(2045)年を令和2(2020)年と比較してみると、年少人口や生産年齢人口は大きく変わらないものの、老年人口は令和2年の約1.38倍、2,053人と超高齢社会から超超高齢社会になることが予想されます。

※平成2年、令和2年の実数は、総務省「国勢調査」より。令和27年は国立社会保障・人口問題研究所の推計値より。

3) 世帯の家族類型別一般世帯の推移

○本村の一般世帯総数は増加傾向であり、そのうち核家族世帯及び単身世帯の実数は増加し、三世代世帯の実数と割合はともに減少傾向から増加に転じています。

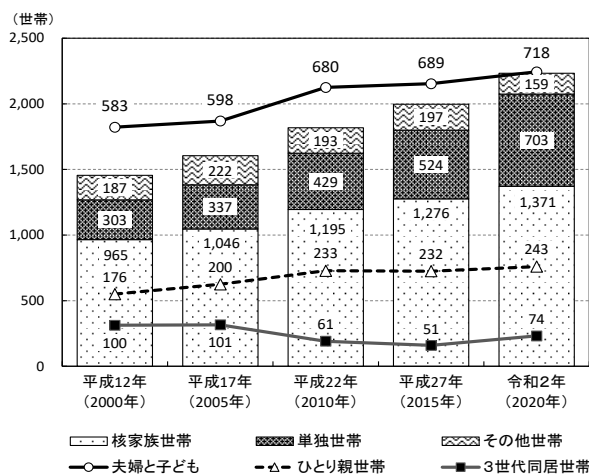
○特に「夫婦と子ども」の世帯の割合（32.2%）は、沖縄県（27.3%）や北部地域の各市町村（2割前後）を上回っている状況です。

○本村の高齢者のいる世帯数は増加しており、高齢者単身世帯及び高齢者夫婦世帯ともに増加となっています。また、高齢者夫婦世帯よりも高齢者単身世帯が多い状況です。

本村の世帯の家族類型別一般世帯数の推移をみると、一般世帯総数は増加傾向であり、そのうち核家族世帯及び単身世帯の実数は増加しており、三世代世帯の実数と割合はともに減少傾向から増加しています。沖縄県及び北部地域の各市町村と比較すると、本村の一般世帯総数に占める核家族世帯の割合は61.4%となっており、沖縄県(55.2%)や北部地域(51.4%)よりも高くなっています。特に本村の「夫婦と子ども」の世帯の割合（32.2%）は、沖縄県（27.3%）や北部地域の各市町村（2割前後）を上回っている状況です。

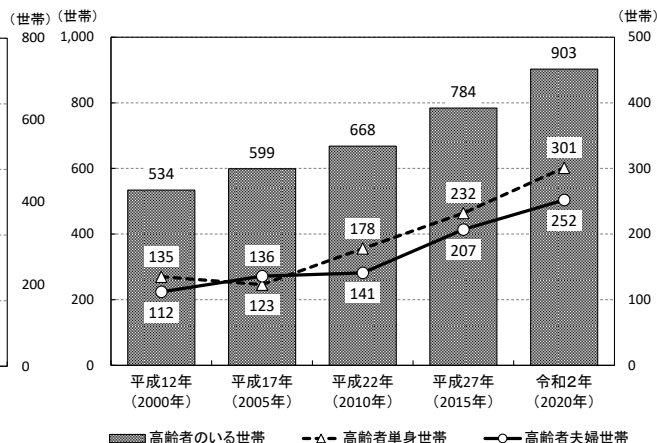
本村の高齢世帯数の推移をみると、高齢者のいる世帯は増加しています。そのうち、高齢者単身世帯と高齢者夫婦世帯がともに増加となっており、なかでも高齢者単身世帯が301世帯と多くなっています。

■ 国勢調査による世帯の家族類型別一般世帯数の推移



資料：総務省「国勢調査」

■ 国勢調査による高齢世帯の推移



資料：総務省「国勢調査」

■ 国勢調査による世帯の家族類型別一般世帯数の推移(実数・割合)

	平成12年(2000年)		平成17年(2005年)		平成22年(2010年)		平成27年(2015年)		令和2年(2020年)		北部地域(令和2年)		沖縄県(令和2年)	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
一般世帯総数	1,455	-	1,605	-	1,812	-	1,997	-	2,233	-	55,839	-	613,294	-
一世帯当たり人員	3.12	-	3.00	-	2.80	-	2.69	-	2.51	-	2.21	-	2.33	-
核家族世帯	965	66.3%	1,046	65.2%	1,195	65.9%	1,276	63.9%	1,371	61.4%	28,718	51.4%	338,232	55.2%
夫婦と子ども	583	40.1%	598	37.3%	680	37.5%	689	34.5%	718	32.2%	13,105	23.5%	167,439	27.3%
ひとり親世帯	176	12.1%	200	12.5%	233	12.9%	232	11.6%	243	10.9%	6,016	10.8%	74,283	12.1%
父子家庭	35	2.4%	40	2.5%	37	2.0%	32	1.6%	39	1.7%	1,022	1.8%	11,246	1.8%
母子家庭	141	9.7%	160	10.0%	196	10.8%	200	10.0%	204	9.1%	4,994	8.9%	63,037	10.3%
その他世帯	187	12.9%	222	13.8%	193	10.7%	197	9.9%	159	7.1%	4,018	7.2%	45,460	7.4%
3世代同居世帯	100	6.9%	101	6.3%	61	3.4%	51	2.6%	74	3.3%	1,667	3.0%	19,797	3.2%
単身世帯	303	20.8%	337	21.0%	429	23.7%	524	26.2%	703	31.5%	23,103	41.4%	229,602	37.4%
高齢者のいる世帯	534	36.7%	599	37.3%	668	36.9%	784	39.3%	903	40.4%	21,740	38.9%	212,708	34.7%
高齢者単身世帯	135	9.3%	123	7.7%	178	9.8%	232	11.6%	301	13.5%	7,643	13.7%	68,601	11.2%
高齢者夫婦世帯	112	7.7%	136	8.5%	141	7.8%	207	10.4%	252	11.3%	5,431	9.7%	50,578	8.2%

資料：総務省「国勢調査」

■ 国勢調査による沖縄県及び北部地域(各市町村)の家族類型別一般世帯数(令和2年)

	沖縄県	北部地域											
		名護市	国頭村	大宜味村	東村	今帰仁村	本部町	恩納村	宜野座村	金武町	伊江村	伊平屋村	伊是名村
一般世帯総数	613,294	28,362	1,971	1,295	721	3,519	5,325	4,726	2,233	4,638	1,899	516	634
一世帯当たり人員	2.33	2.16	2.24	2.21	2.15	2.38	2.25	2.25	2.51	2.21	2.15	2.14	2.04
核家族世帯	338,232	14,009	1,046	661	387	2,141	2,822	2,247	1,371	2,406	1,066	272	290
夫婦と子ども	167,439	6,626	435	264	151	902	1,196	1,084	718	1,106	401	106	116
ひとり親世帯	74,283	2,893	249	177	75	429	592	511	243	569	177	55	46
父子家庭	11,246	429	54	43	23	87	95	99	39	94	34	16	9
母子家庭	63,037	2,464	195	134	52	342	497	412	204	475	143	39	37
その他世帯	45,460	1,772	183	137	55	311	449	465	159	254	149	39	45
3世代同居世帯	19,797	769	69	44	21	123	197	205	74	95	46	13	11
単独世帯	229,602	12,581	742	497	279	1,067	2,054	2,014	703	1,978	684	205	299
高齢者のいる世帯	212,708	9,059	1,031	750	400	1,842	2,583	1,708	903	1,975	970	230	289
高齢者単身世帯	68,601	3,076	373	290	147	619	895	507	301	894	343	76	122
高齢者夫婦世帯	50,578	2,320	235	149	101	497	658	347	252	459	282	62	69

	沖縄県	北部地域											
		名護市	国頭村	大宜味村	東村	今帰仁村	本部町	恩納村	宜野座村	金武町	伊江村	伊平屋村	伊是名村
一般世帯総数	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
一世帯当たり人員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
核家族世帯	55.2%	49.4%	53.1%	51.0%	53.7%	60.8%	53.0%	47.5%	61.4%	51.9%	56.1%	52.7%	45.7%
夫婦と子ども	27.3%	23.4%	22.1%	20.4%	20.9%	25.6%	22.5%	22.9%	32.2%	23.8%	21.1%	20.5%	18.3%
ひとり親世帯	12.1%	10.2%	12.6%	13.7%	10.4%	12.2%	11.1%	10.8%	10.9%	12.3%	9.3%	10.7%	7.3%
父子家庭	1.8%	1.5%	2.7%	3.3%	3.2%	2.5%	1.8%	2.1%	1.7%	2.0%	1.8%	3.1%	1.4%
母子家庭	10.3%	8.7%	9.9%	10.3%	7.2%	9.7%	9.3%	8.7%	9.1%	10.2%	7.5%	7.6%	5.8%
その他世帯	7.4%	6.2%	9.3%	10.6%	7.6%	8.8%	8.4%	9.8%	7.1%	5.5%	7.8%	7.6%	7.1%
3世代同居世帯	3.2%	2.7%	3.5%	3.4%	2.9%	3.5%	3.7%	4.3%	3.3%	2.0%	2.4%	2.5%	1.7%
単独世帯	37.4%	44.4%	37.6%	38.4%	38.7%	30.3%	38.6%	42.6%	31.5%	42.6%	36.0%	39.7%	47.2%
高齢者のいる世帯	34.7%	31.9%	52.3%	57.9%	55.5%	52.3%	48.5%	36.1%	40.4%	42.6%	51.1%	44.6%	45.6%
高齢者単身世帯	11.2%	10.8%	18.9%	22.4%	20.4%	17.6%	16.8%	10.7%	13.5%	19.3%	18.1%	14.7%	19.2%
高齢者夫婦世帯	8.2%	8.2%	11.9%	11.5%	14.0%	14.1%	12.4%	7.3%	11.3%	9.9%	14.8%	12.0%	10.9%

資料：総務省「国勢調査」

4) 住宅の所有関係別一般世帯の推移

○令和2年の住宅所有関係別世帯では、「持ち家」世帯が1,337世帯(59.9%)と最も多く、次いで「民営借家」が729世帯(32.6%)、「公的借家」が115世帯(5.2%)となっています。

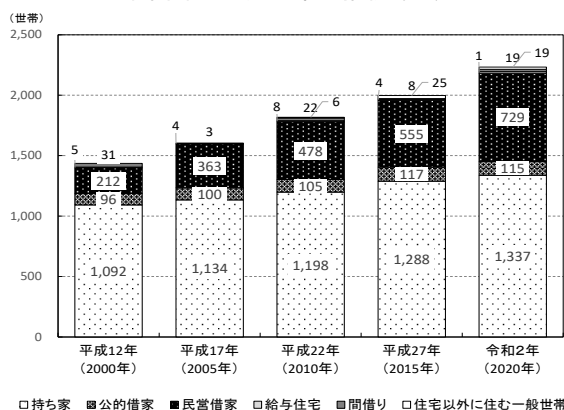
○住宅の所有関係別一般世帯の推移(実数)をみると「持ち家」及び「民営借家」は増加傾向であり、特に平成12年以降に「民営借家」が増加しています。

住宅の所有関係別一般世帯の推移(実数)をみると、「住宅に住む一般世帯」は平成12年から令和2年の20年間で778世帯の増加となっています。令和2年の住宅所有関係別世帯では、「持ち家」世帯が1,337世帯(59.9%)と最も多く、次いで「民営借家」が729世帯(32.6%)、「公的借家」が115世帯(5.2%)となっています。

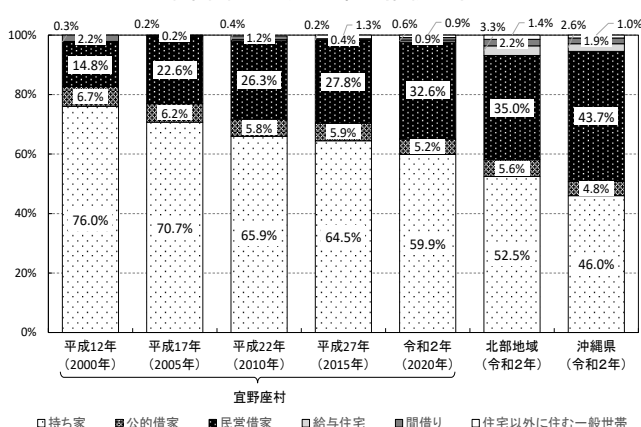
住宅の所有関係別一般世帯の推移(割合)をみると、「民営借家」が増加したため、平成22年より「持ち家」の割合が7割を下回っています。

沖縄県や北部地域と令和2年の所有関係別一般世帯の割合を比較すると、本村の「持ち家」(59.9%)の割合は沖縄県(46.0%)や北部地域(52.5%)よりも高く、「民営借家」(32.6%)の割合は沖縄県(43.7%)や北部地域(35.0%)よりも低くなっています。

■住宅の所有関係別一般世帯の推移(実数)



■住宅の所有関係別一般世帯の推移(割合)



■宜野座村の住宅所有関係別一般世帯の推移

	平成12年(2000年)		平成17年(2005年)		平成22年(2010年)		平成27年(2015年)		令和2年(2020年)		北部地域(令和2年)		沖縄県(令和2年)	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
持ち家	1,092	76.0%	1,134	70.7%	1,198	65.9%	1,288	64.5%	1,337	59.9%	29,306	52.5%	282,084	46.0%
公的借家	96	6.7%	100	6.2%	105	5.8%	117	5.8%	115	5.2%	3,125	5.6%	29,495	4.8%
民営借家	212	14.8%	363	22.6%	478	26.3%	555	27.8%	729	32.6%	19,564	35.0%	267,916	43.7%
給与住宅	5	0.3%	4	0.2%	8	0.4%	4	0.2%	14	0.6%	1,833	3.3%	15,981	2.6%
間借り	31	2.2%	3	0.2%	22	1.2%	8	0.4%	19	0.9%	1,203	2.2%	11,929	1.9%
住宅以外に住む一般世帯	0	0.0%	0	0.0%	6	0.3%	25	1.3%	19	0.9%	808	1.4%	5,889	1.0%
一般世帯数	1,436	100.0%	1,604	100.0%	1,817	100.0%	1,997	100.0%	2,233	100.0%	55,839	100.0%	613,294	100.0%

資料:総務省「国勢調査」

■沖縄本島北部地域の各市町村別住宅所有関係別一般世帯(令和2年)

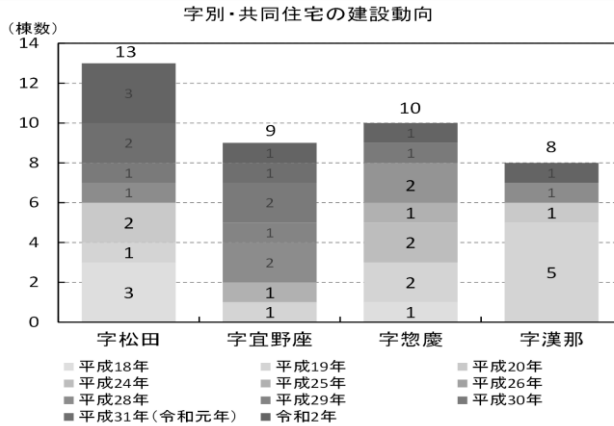
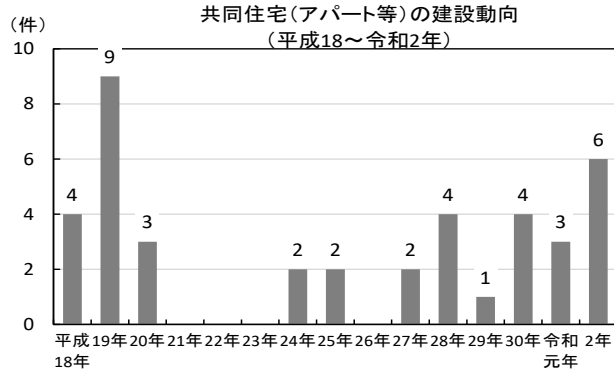
	沖縄県	北部地域	北部地域											
			名護市	国頭村	大宜味村	東村	今帰仁村	本部町	恩納村	宜野座村	金武町	伊江村	伊平屋村	伊是名村
持ち家	46.0%	52.5%	41.1%	71.8%	73.8%	68.0%	76.7%	63.7%	54.5%	59.9%	58.5%	70.7%	57.6%	65.9%
公的借家	4.8%	5.6%	6.3%	4.9%	11.9%	16.9%	3.4%	2.1%	5.2%	3.7%	5.7%	23.6%	9.5%	
民営借家	43.7%	35.0%	46.9%	14.1%	8.9%	6.4%	16.4%	25.4%	27.0%	32.6%	32.0%	16.7%	4.8%	11.0%
給与住宅	2.6%	3.3%	3.0%	5.8%	0.8%	3.6%	0.6%	3.6%	8.6%	0.6%	1.1%	3.3%	7.9%	6.5%
間借り	1.9%	2.2%	1.5%	1.6%	3.4%	2.1%	2.4%	2.2%	4.2%	0.9%	3.8%	2.2%	1.4%	4.9%
住宅以外に住む一般世帯	1.0%	1.4%	1.1%	1.8%	1.2%	3.1%	0.7%	1.7%	3.7%	0.9%	0.9%	1.5%	4.7%	2.2%

資料:総務省「国勢調査」

参考：民間アパート等の建設動向

・本村における平成18年～令和2年（家屋調査）による民間における共同住宅（民間アパート等）の建設動向をみると、平成19年の9件と令和2年の6件が多く、平成29年以降は建設件数の増加傾向がみられます。

・字別で共同住宅（民間アパート等）の建設動向をみると、字松田が13件と最も多く、次いで字惣慶で10件、字宜野座で9件、字漢那で8件となっています。

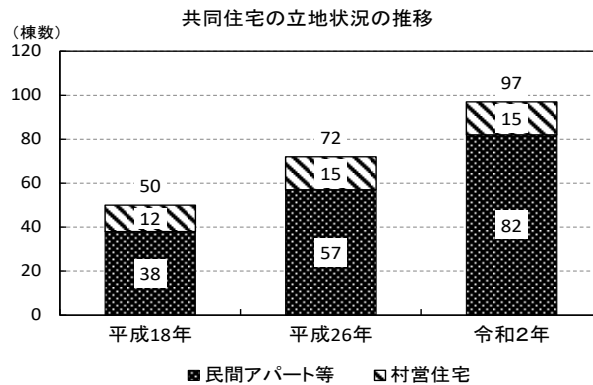


参考：共同住宅（民間アパート等、村営住宅）の立地状況

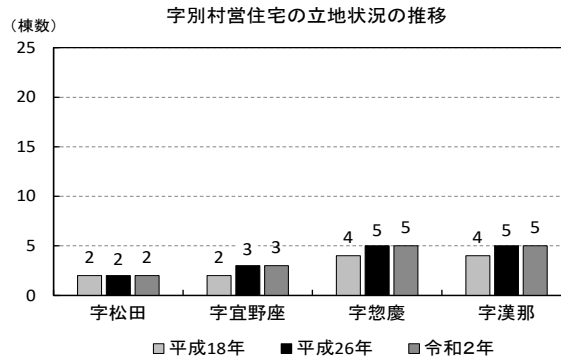
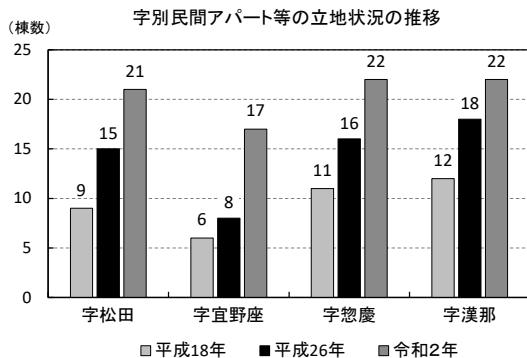
・本村における共同住宅（民間アパート等、村営住宅）の立地状況（棟数）をゼンリン住宅地図等の調べからみると、共同住宅の棟数は増加傾向であり、特に民間アパート等が著しく増加（この14年間で47棟）しています。

・字別で共同住宅の立地状況（令和2年）をみると、村営住宅（県営はない）では各字ともに2～5棟と、あまり地域差はない状況です。

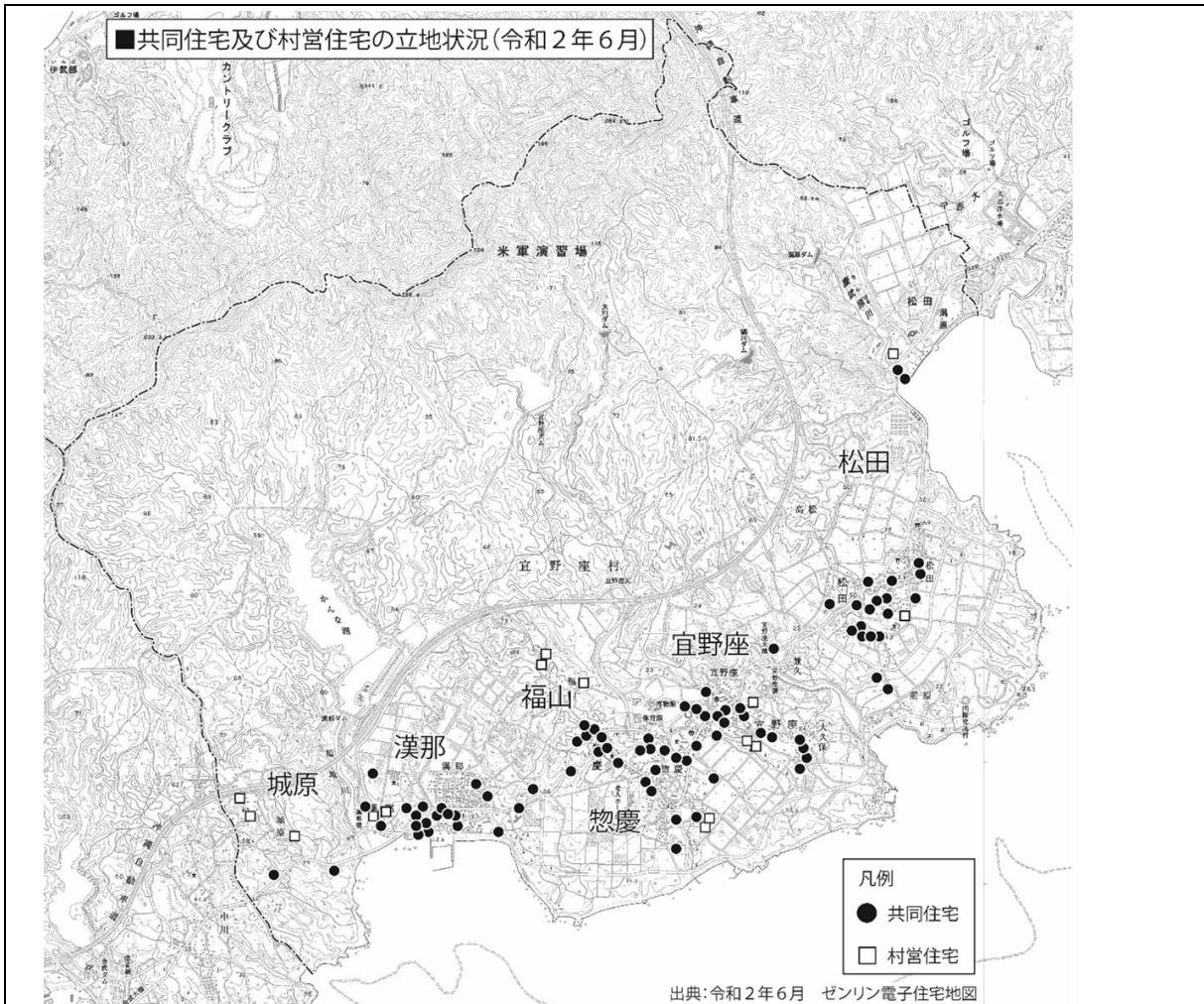
民間アパート等では、各字とも20棟前後が立地しています。



資料：ゼンリン住宅地図、宜野座村村営住宅一覧表



資料：ゼンリン住宅地図、宜野座村村営住宅一覧表

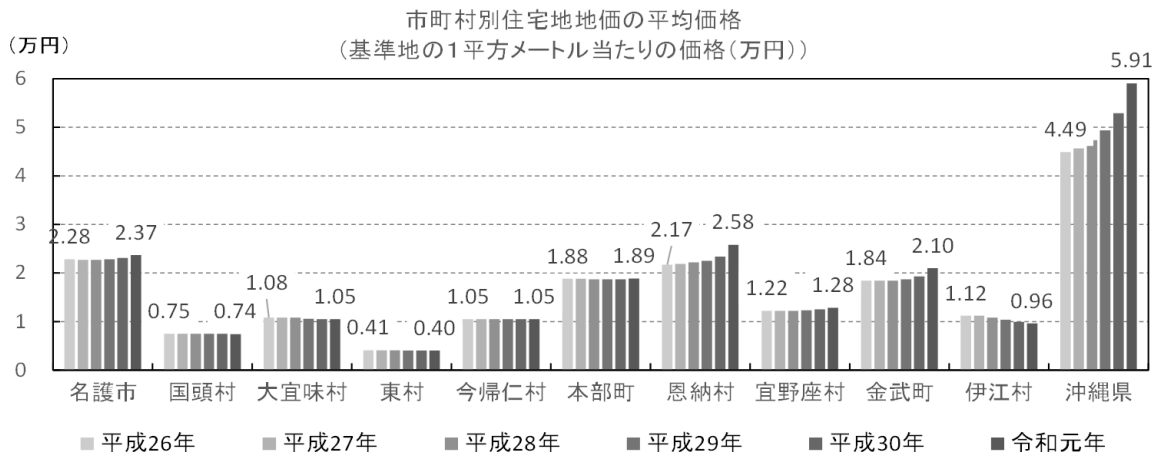


補足：4字と6行政区

字松田	字宜野座	字惣慶		字漢那	
松田区	宜野座区	惣慶区	福山区	漢那区	城原区

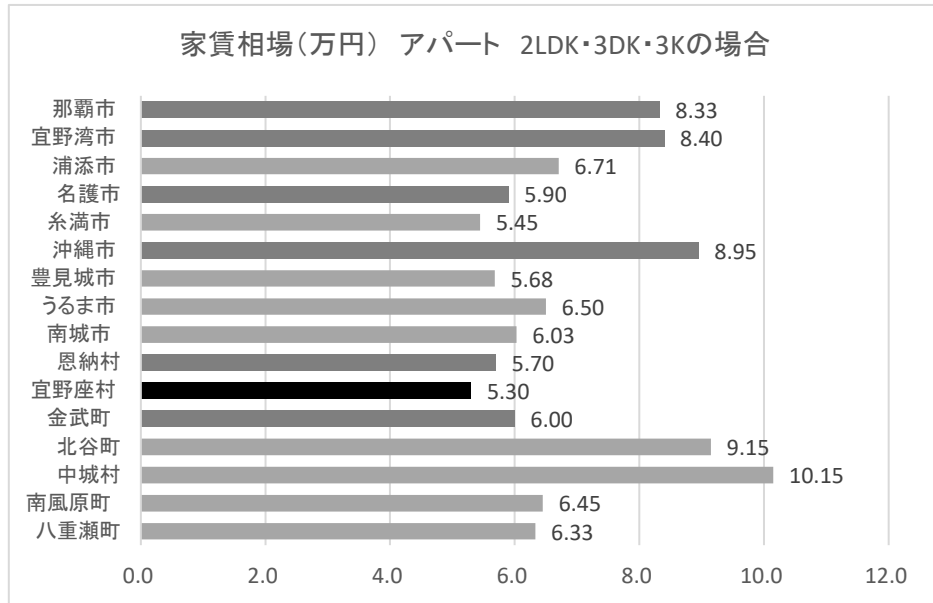
参考：住宅地価格の比較

- ・北部地域の市町村別住宅地地価の平均価格の推移をみると、名護市、恩納村、宜野座村、金武町は増加していますが、その他の町村は横ばいまたは減少となっています。
- ・令和2年の宜野座村は1.28万円/m²と緩やかに増加していますが、隣接している名護市、恩納村、金武町と比較すると、0.8～1.3万円/m²程低くなっています。



参考：沖縄県内の家賃相場（アパート 2LDK・3DK・3Kの場合）

- ・令和3年1月時点における沖縄県内の家賃相場（アパート2LDK・3DK・3Kの場合）をみると、宜野座村は5.3万円となっており、隣接する金武町（6.0万円）、恩納村（5.7万円）、名護市（5.9万円）よりも低くなっています。

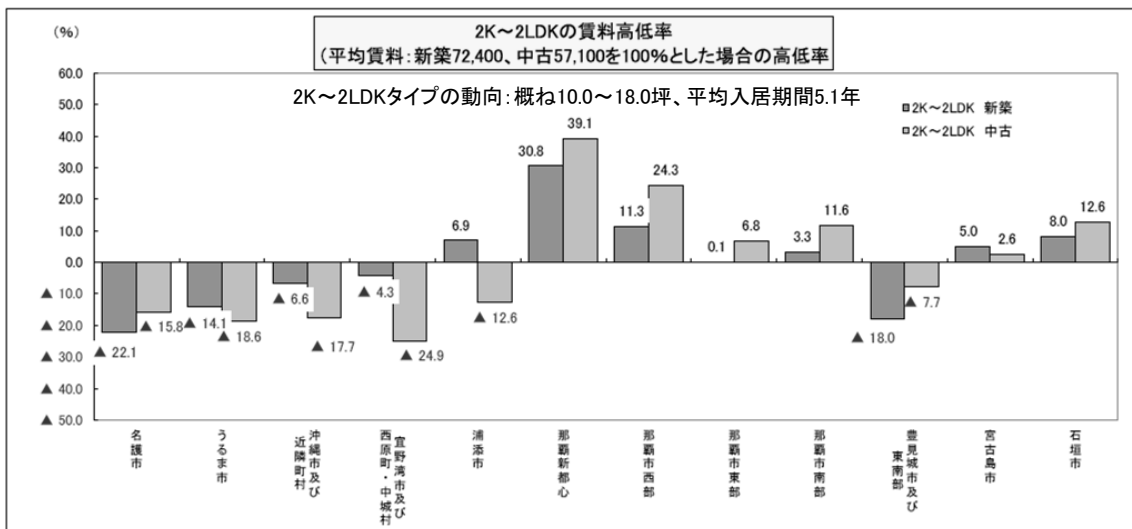


注意：2社の情報サイトに掲載されている情報を元に作成しています。県内のすべての家賃相場を調査しているものではありません。

資料：ホームメイト、SUUMO(スーモ)の家賃相場(令和3年1月15日現在)より作成

参考：2K～2LDKタイプ賃料の動向

- ・2K～2LDKタイプは供給が多い間取りでもあり、広めのLDKタイプは単身から家族世帯まで幅広い層に人気です。新築物件、中古物件ともに那覇地域、離島地域が高く、本島中北部が低くなっています。



資料：おきぎん賃料動向ネットワーク調査(2019年)

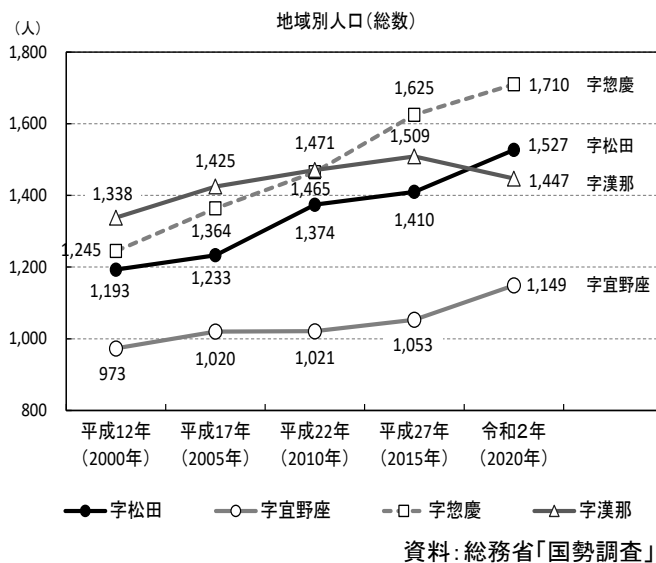
5) 地域別人口の推移

- 「字松田」「字宜野座」「字惣慶」の3地域では増加傾向であり、なかでも「字宜野座」の人口が著しく伸びています。「字漢那」はほぼ横ばいで減少傾向となっています。
- 各地域とも老年人口（65歳以上）は増加傾向であり、高齢化が進展しています。
- 年少人口（0～14歳）では、「字惣慶」が平成12年以降、「字松田」と「字漢那」が平成17年以降、「字宜野座」が平成22年以降に増加に転じています。

令和2（2020）年現在の国勢調査による地域別人口（字別）をみると、最も人口が多いのは「字惣慶」で1,710人（29.3%）、次いで「字松田」で1,527人（26.2%）、「字漢那」で1,447人（24.8%）、「字宜野座」で1,149人（19.7%）となっています。

平成12（2000）年からの地域別人口の推移をみると、「字惣慶」「字松田」「字宜野座」の3地域では増加傾向であるものの、「字漢那」では微増から減少となっています。

年齢3区分別の地域別人口の推移をみると、年少人口（0～14歳）では、「字惣慶」が平成12年以降、「字漢那」「字松田」が平成17年以降、「字宜野座」が平成22年以降に増加傾向となっています。生産年齢人口（15～64歳）では、「字惣慶」が増加傾向であるものの、「字宜野座」が平成17年以降、「字漢那」「字松田」が平成22年以降減少傾向となっています。老年人口（65歳以上）では、各地域とも増加傾向であり、「字松田」を除く3地域では実数及び割合ともに年少人口よりも老年人口が上回っています。



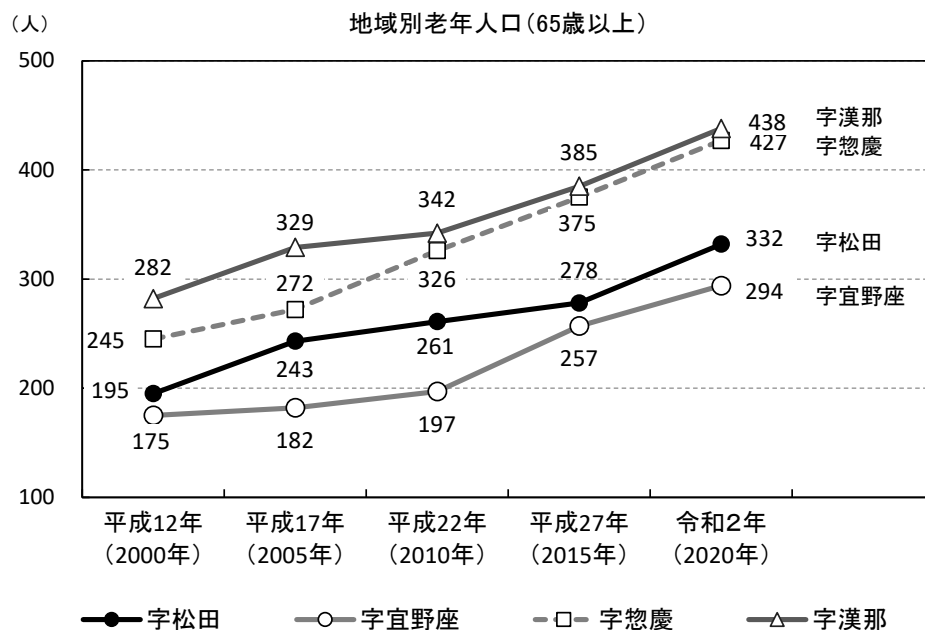
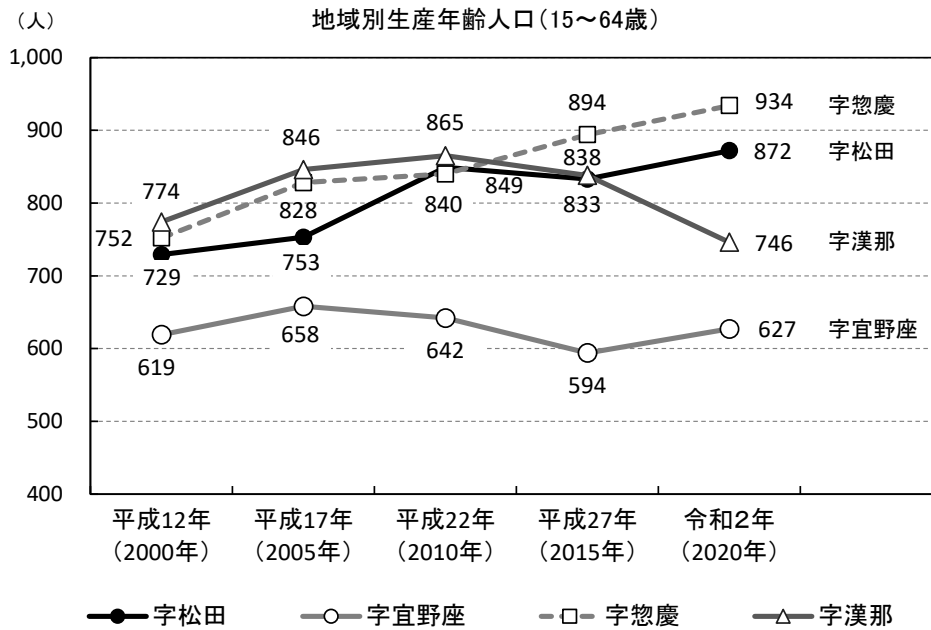
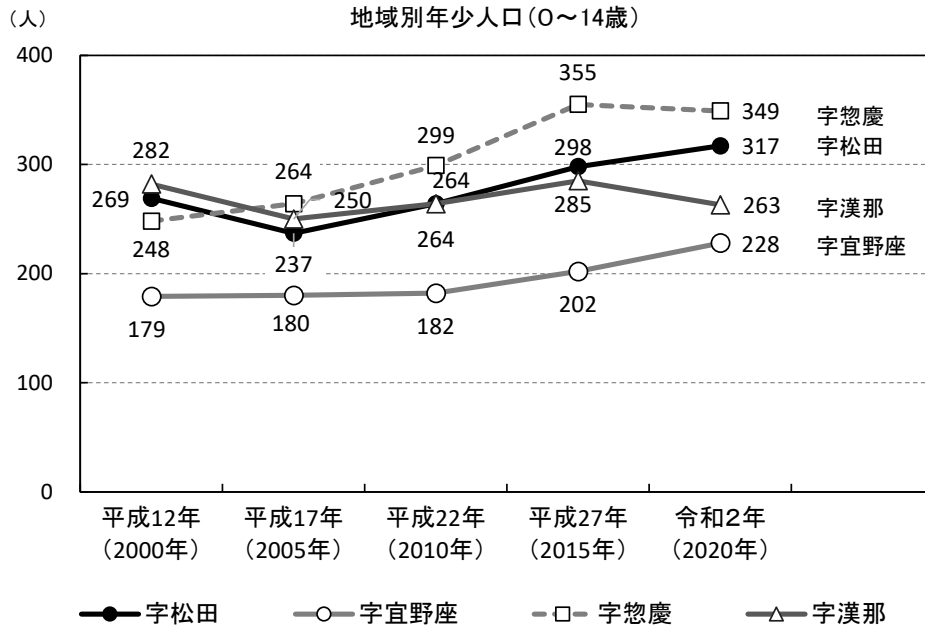
■地域区分図(字別)

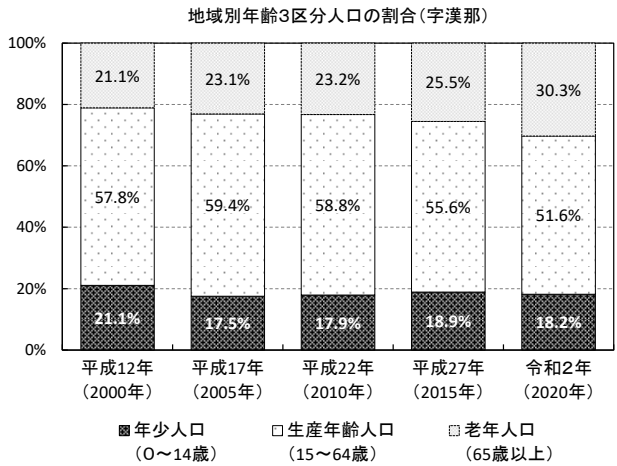
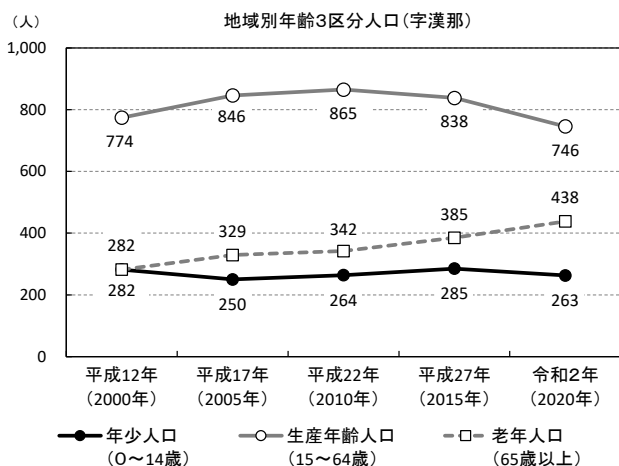
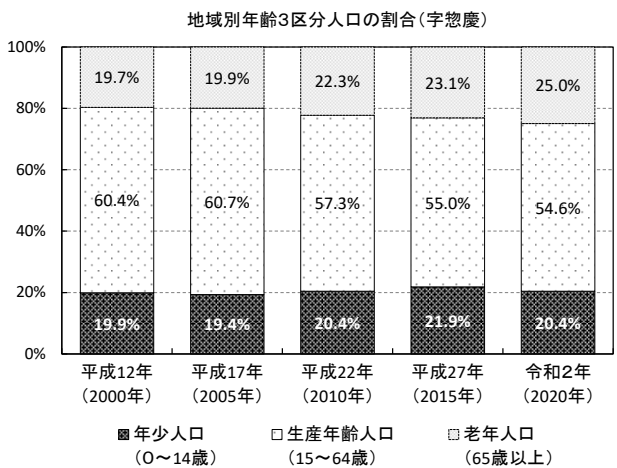
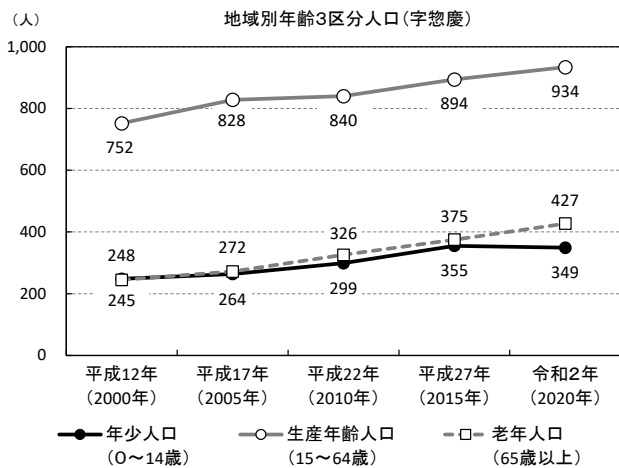
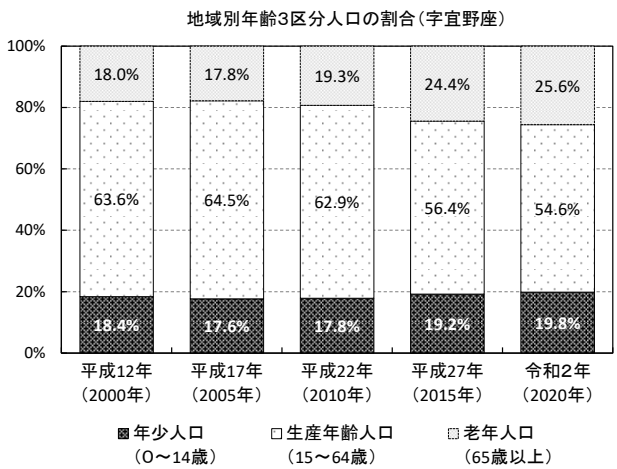
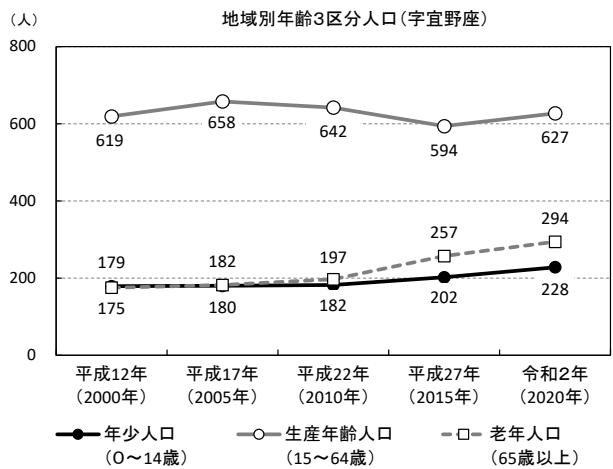
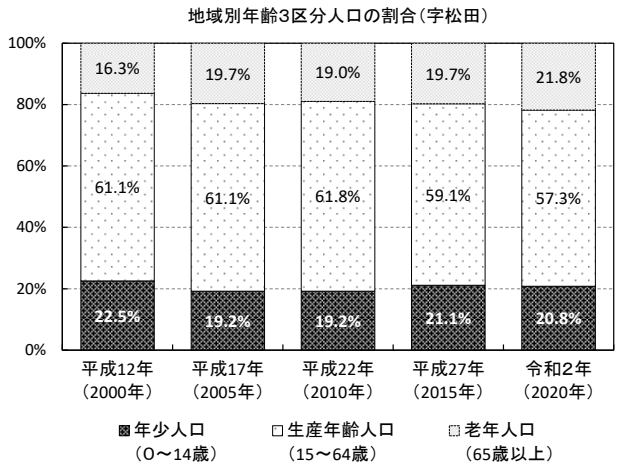
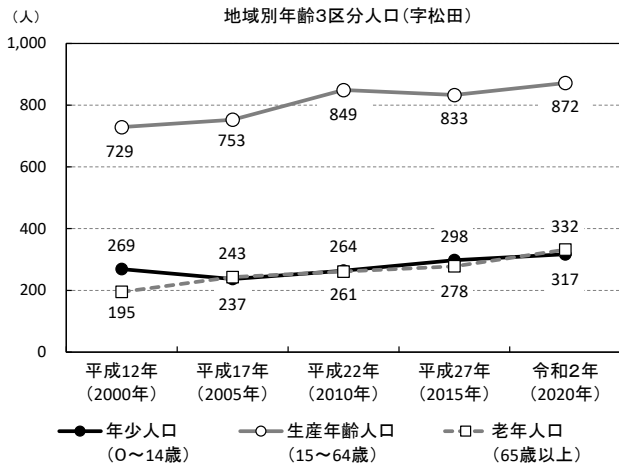


■地域(字)別人口の推移

	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年		増加数(R2-H12)	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	増加数	総増加数構成比
字松田	1,193	25.1%	1,233	24.5%	1,374	25.8%	1,410	25.2%	1,527	26.2%	334	30.8%
人口増加率	—		3.4%		11.4%		2.6%		8.3%		23.8%	
字宜野座	973	20.5%	1,020	20.2%	1,021	19.2%	1,053	18.8%	1,149	19.7%	176	16.2%
人口増加率	—		4.8%		0.1%		3.1%		9.1%		12.6%	
字惣慶	1,245	26.2%	1,364	27.1%	1,465	27.5%	1,625	29.0%	1,710	29.3%	465	42.9%
人口増加率	—		9.6%		7.4%		10.9%		5.2%		25.4%	
字漢那	1,338	28.2%	1,425	28.3%	1,471	27.6%	1,509	27.0%	1,447	24.8%	109	10.1%
人口増加率	—		6.5%		3.2%		2.6%		-4.1%		1.5%	
計	4,749	100.0%	5,042	100.0%	5,331	100.0%	5,597	100.0%	5,833	100.0%	1,084	100.0%
人口増加率	—		6.2%		5.7%		5.0%		4.2%		22.8%	

資料: 総務省「国勢調査」





(2) 自然増減、社会増減の状況

1) 人口動態

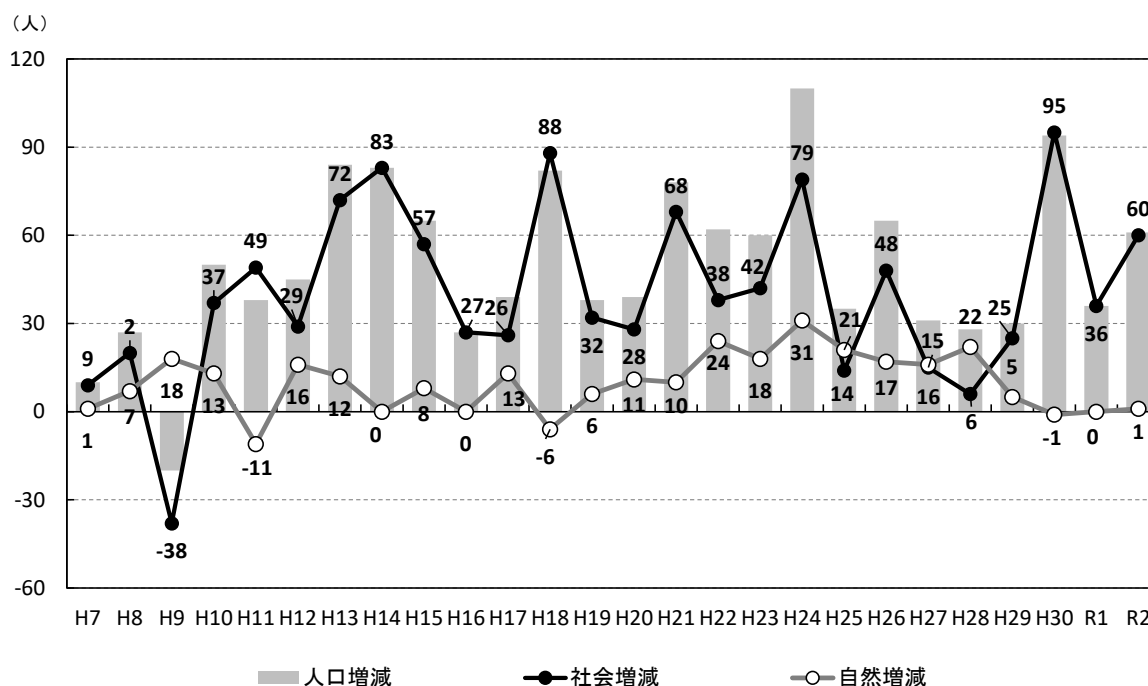
- 本村の人口動態は、平成10年以降は自然動態と社会動態がともに「増加」となっており、また、自然増よりも社会増が多い人口増となっています。
- 社会動態では、平成10年以降は転入数が転出数を上回る「転入超過」(社会増)の状況が続いています。
- 自然動態では、平成20年以降は出生数が死亡数を上回る50~60人/年の「自然増」の状況が続いています。出生数は平成20年から増加傾向であったものの、平成24年以降は減少傾向がみられましたが、令和元年以降は増加傾向です。死亡数は、平成21年から平成30までほぼ横ばいで推移していましたが、令和元年以降は増加傾向となっています。

人口移動報告年報(沖縄県)による本村の自然増減及び社会増減の推移をみると、平成10年以降は自然動態(出生>死亡)と社会動態(転入>転出)がともに「増加」が続いており、また、自然増よりも社会増が多い人口増となっています。

自然動態の推移をみると、平成19~29年までは出生数が死亡数を上回る「自然増」の状況が続いていましたが、平成30年以降は±1で推移しています。死亡数は、平成21年以降、60人前後ではほぼ横ばいで推移していましたが、令和2年は83人と増加しています。出生数は平成24年の90人をピークに減少傾向でしたが平成30年以降増加傾向がみられます。

社会増減の推移をみると、平成10年以降は転入数が転出数を上回る「社会増(転入超過)」の状況が続いています。各年によって変動はあるものの、転入数は300人前後、転出数は250人前後で推移(令和2年を除く)しています。

■自然増減数及び社会増減数の推移(平成7年~令和2年)



資料:人口移動報告年報(沖縄県)(各年10月1日~9月30日の値)